暮らしの底上げ

クラシノソコアゲ応援団！

第71回

空気や風を読むだけの政治家はいらない

連合会長 神津里季生

この連載も残すところあと二回となった。最後まで犬猫話が多くてあきれられるかもしれないが、彼ら彼女らの生き様をみていると、生命誕生からの長い長い生物史のなかでよくぞここまで一緒に生きてきたと思うのだ。

ダテに命をつないできたわけではおまへんで。種を保存し、進化を遂げてきたワシらの能力の高さ、わかっとりますやろ。とでも言いたげだ。関西弁を駆使するはずはないが、東京もんにはわからんわなあ、わいらの底力、みたいなふぜいだ。人間にはわからんやろなあ。

今起きている身の回りの状況や、忍び寄る危機などに対して、その嗅覚・聴覚の能力は抜群である。私自身も家から五百メートルも先にある最寄り駅をおりた瞬間にその足音に愛犬が反応していたとか、次男が中学時代にワルの仲間にやっつけられそうになっていたときに、伝説のスーパー犬リンが足跡の匂いから居場所を探し当て無事救出したとか、神業的なエピソードがあるのだ。

その半面、過去の事績や遠くの情報を伝え聞き、将来に備えるなどということは犬猫には全くできない。それはやはり言語・文字という手段を持つ人間にしかできないことである。

ところで先日発表された内閣府の「国民生活に関する世論調査」の内容をご記憶であろうか。「収入に満足」が五一％と、不満の四七％を超え、二一年ぶりに満足が不満を上回ったと報じられたあの調査である。

えっ本当？と多くの方々は思われたのではなかろうか。今の格差社会の実情を反映したものとは到底思えないからである。さらにびっくりの数字は、「現在の生活にどの程度満足しているか」の問いに対し、「満足」が七四％という答えである。

これなら政権は安泰だわな、一強政治もむべなるかなという感じだ。若い人たちの保守的傾向や現状維持の雰囲気も整合するのである。

しかしよくよく考えるならば、これは一千兆円を超える国の借金が土台にあっての数字である。要するに身の丈に合わない財政支出の大盤振る舞いをオイルショック以降の四十数年延々と続けているなかでの数字である。そりゃ、これだけの金をつぎ込んでいるのだから、皆、不満はございませんということになりますわな。よく使われるたとえだが、今我々は将来世代のクレジットカードでばんばん買い物をしまくっているのである。そりゃあ満足でしょうよ。

アリとキリギリスが混在しているのだ。年配のアリさん世代の多くは昔の苦労を乗り越えてきたから、今良い生活ができることは当然と考える。一方若い世代はどうせあくせく働いても将来の展望は見いだせないのだしキリギリスでもなんとかなるだろう？と考える。

投票率の高いアリさん世代が元気なうちに政治をなんとかしなければならないのではないか？　人間なのだから、まともな理念と政策でちゃんと将来の世の中を考えましょうよ。嗅覚や聴覚で空気や風を読むだけの政治家はいりません。

こうづ・りきお　1956年、東京都生まれ。東京大学在学中は野球部マネジャー。卒業後、新日本製鐵株式会社入社。新日鐵労連会長、基幹労連中央執行委員長などを経て、2015年、日本労働組合総連合会会長に就任